

反映状況票

(単位:百万円)

省庁名	調査事業名	調査主体	取りまとめ財務局	元年度予算額	2年度予算案	増▲減額	反映額
防衛省	(40) 各自衛隊共通の航空機の整備・補給等	本省	—	467,677 の内数	497,443 の内数	29,766 の内数	▲2,009 (契約ベース)
事案の概要	各自衛隊共通の航空機の整備・補給等に関して、定期修理の間隔、経費及び基準等の観点から、最も効果的・効率的なあり方を検証するものである。(本調査は、平成21年度予算執行調査のフォローアップ調査として実施。)						

調査結果の概要及び今後の改善点・検討の方向性

1. 航空機(機体・エンジン)の定期修理間隔

- 同一機種^①の定期修理間隔は、合理的な理由がない限り、統一すべき。特に、C-130については、海自と空自で整備方法を可能な範囲で統一するなど効率的な運用を検討し、更なる合理化を図るべき。

2. 航空機の修理経費・部品経費

- 各自衛隊、特に陸自と空自は、他の自衛隊とのデータ比較等を含めた修理費の差額に関する詳細な要因分析を行い、成果保証(以下「PBL」という。)契約の活用など、より効率的な整備のあり方を検討すべき。
- UH-60については、航空救難機能の空自への一元化を速やかに進め、更なる全体最適を図るべき。

3. 航空機部品等の在庫管理、修理(交換)基準及び調達

- 各自衛隊の在庫定数・修理(交換)基準については、適正な在庫のあり方・修理方法について検討を行い、合理的な理由がない限り、各自衛隊で基準を統一すべき。
- 各自衛隊を通じた在庫情報の一元管理や中央調達への調達手法の一元化など、補給業務の一元化について防衛省全体で更に取組を進めるべき。

4. 統合強化

- 今般の調査に際し、必要となるデータの収集に時間を要するなど、装備品の整備・補給に関するコストデータ管理体制が十分でないことが推察された。
- 各自衛隊間の統合運用強化の観点からは、整備・補給についても、IT技術を積極的に活用し、コストデータの見える化を推進するとともに、各自衛隊間でデータや知見を共有し、より効率的な整備・補給体制を構築するなど、防衛省全体で意識改革の徹底を図るべき。

反映の内容等

1. 航空機(機体・エンジン)の定期修理間隔

- UH-60及びCH-47の機体・エンジンの定期修理間隔は、運用に支障がないことを確認した上で、効率性の観点から最も長い間隔に統一済みである。C-130の機体の定期修理間隔については、海自と空自において、引き続き、より効率的な間隔の設定を追求していく。

2. 航空機の修理経費・部品経費

- CH-47については、空自における一時的な改修に係る費用等により、陸自より空自の修理費が高額となっていた。このため、空自のエンジン改修数量の見直しを行い、経費低減を実施した。
(反映額:▲2,009百万円(契約ベース【令和2~5年度】))
- PBLについては、CH-47は陸自と空自、C-130は海自と空自での同時実施による効率化の検討を含め、令和4年度までにその活用について判断する。
- 海自及び空自の航空救難機能については、全体最適の観点から、海自のUH-60の除籍に合わせた、空自への一元化を推進中である。

3. 航空機部品等の在庫管理、修理(交換)基準及び調達

- 在庫定数・在庫情報の一元化については、各自衛隊間の違いを継続的に分析しつつ、共通部品の在庫情報を共有し、令和3年度予算に反映できるよう、部品の各自衛隊間の融通を踏まえた効率的な在庫管理を行う。
- 修理(交換)基準については、企業の知見を活用し、最も長い期間に統一できるよう分析を進めており、令和3年度までに一定の結論を得る。
- 中央調達への一元化については、既に中央調達を行っている陸自の調達方法を参考に、海空自においても中央調達に一元化する方向でその効果や運用上の課題を評価中であり、令和元年度内を目途に一定の結論を得る。

4. 統合強化

- 各自衛隊間で在庫情報に加え、令和元年度内を目途にコストデータについても共有を図る。令和3年度予算に反映できるよう、各自衛隊間で整備・補給に係る在庫情報等の共有を行う。